



アートな町並み ～たけはら国際芸術祭 2011～

4月9日～24日、たけはら国際芸術祭2011が開催され、町並み保存地区などで、作品展や、参加者がアーティストの指導を受けながら創作に挑戦するワークショップなどが行われました。

旧笠井邸では、9日、アニメーション制作に携わる大下志穂さんによる「フェルトを使ったストーンオブジェ作り」が行われ、子どもたちが色とりどりのフェルトを切り貼りする姿が見られました。「こんな風にしても面白いかも」「この色はどうかかな」と、自由な発想で作品を作り上げました。

24日の最終日には、たけはら美術館文化創造ホールで、アニメ「たまゆら」の佐藤順一監督と田尻健一美術監督による講演



会が行われ、声優の儀武ゆう子さんが司会を務めました。講演のテーマは「アニメーションで描く竹原の魅力を語る」。

佐藤監督は、「竹原には、特徴的な風情ある町並みがあるとかが良かった。それに、住んでいる人が竹原を好きで、いろいろなことを話してくれる。それが魅力につながる。」

と竹原をアニメの舞台にした理由を語りました。

また、地元の観客からは、「フアンのみなさんが観光に訪れている風景を見ると、竹原は良いところなんだなあと見直すことがあります。頑張つて盛り上げたいですね。」という感想が出ました。

マツダスタジアムで 竹原の魅力を発信！

4月23日、竹原市観光協会と竹原市役所が、マツダスタジアムで大型ビジョンや特設ブースを使って、竹原の魅力を発信しました。



4月23日、カープ対ヤクルトスワローズ戦。熱い試合が行われた球場で、竹原市の魅力をPRする取組みが行われました。

当日は、竹原市竹工芸振興協会が製作したマツダスタジアムの外野スコアボード裏に設置されている「竹トンネル」の近くで、純米吟醸たけはら焼やかぐやパンダグッズなどの販売、正面ゲートの近くで、峠下牛の網焼きが販売されました。

また、試合前と試合中に、球場内の大型ビジョンで、「竹まつり」や「道の駅たけはら」、

アニメ「たまゆら」など竹原の旬な話題も発信しました。

PR隊として参加した竹原市観光協会の五反田裕治さんは、「このような機会を使って、竹原をPRすることができて良かった。まずは竹原を知ってもらうことが大切。」と感想を話します。

峠下牛は完売し、純米吟醸たけはら焼に並んだ人の列は、途絶えることはありませんでした。

試合の観戦に訪れたみなさんに、竹原の魅力を知っていただけたのではないのでしょうか。

被災した子どもたちのために

3月30日、福祉会館で、被災地の子どもたちを応援するチャリティーコンサートが開催され、市内の親子連れが多数参加しました。ステージではケロポンズと藤本ともひこさんが歌や踊りを披露し、ステージ横には募金箱が設置されました。



桜まつりを通じて 被災地支援も

4月3日、バンブー公園で桜まつりが開催されました。今年の桜まつりでは、東日本大震災の被災地を支援するため、竹原商工会議所、桜まつり実行委員会、竹原市役所が会場で義援金の協力を呼びかけました。会場では、家族で義援金に協力する姿も見られました。

ステージでは、竹原やっさっさやフラダンスなどが披露され、また、飲食ブースでは市内団体や飲食店による寿司やうどんなどの販売が行われました。出演者・出展者のみなさんが桜まつりを訪れた人々を楽しませてくれました。

入学おめでとう

4月7日、市内の中学校で入学式が行われました。竹原中学校では、148人の新生が、保護者や上級生に見守られ、中学校生活をスタートさせました。式の最後に、新生が初めて中学校の校歌を歌う姿が印象的でした。



仁賀に美しい影絵が登場！

4月2日～29日までの間、仁賀町の梅王館前に仁賀の源流を守る会が木彫作家の池田和夫さんと製作した影絵が登場しました。ライトアップされると、夜桜を楽しみながらお酒を酌み交わす人々の姿が写し出され、仁賀の風景を一段と美しいものにしてくれました。



れんげまつり 幕を閉じる

4月24日、仁賀町で仁賀れんげまつりが開催されました。

地域のみなさんの力で18年間行われてきた祭りですが、地域のにぎわい創出に一定の役割を果たしたとして、今年でその歴史に幕を閉じました。

当日は、会場で恒例のニジマスのつかみ捕りが行われ、子どもたちが元気にニジマスをつまめる姿が見られました。これまで多くの家族連れを楽しませてきた仁賀れんげまつり。祭りを支えてきた地域のみなさん、ありがとうございました。

癒されますねえ～

4月16日～18日、忠海で宮床まつりが開催されました。今年も多くの人でにぎわい、店主と話をしながら植木を見定めている人や、色とりどりの花を見て微笑んでいる人の姿が見られました。とても癒される祭りです。

